

宇田川準一譯
小笠原東陽校

卷一

小學讀本

文學社刊行



39-8/22

小學讀本卷之一

宇田川準一譯

小笠原東陽校

第一課

第一

かれハ何に乗りて、
居る也。○かれハ馬



小學讀本卷一

に、乗りて居れり。○彼は、たれなりや。○彼は、某なり。

第二

これは、小兒なりや。○然り。○彼は、何の中に居るや。○彼は、今、籠船の中に居れり。



第三
行け。○其處まで、行け。○徐に、行け。○我等の、行く如くに、行くべし。

第四

彼は、馬の上に、乗りて、居るや。○彼は、馬に乗



りて居れり。○我も馬に乗りて居れり。○我等は共に馬を歩ませて行くなり。



第五
我等は河の中に行けるや。○我等は、その中に行けり。○我

等の爲す如くにせよ。○我の斯く爲す如くすべし。

第六



就鷲は飛び翔ることを得るや。○就鷲は飛び翔ることを得。○我は、飛び上ることを得るや。○否、飛び

上ること能はず

第七



我等の爲めに體を縮めて前に屈め○我等はその上を跳ね越さんとす○我等の爲す如くせよ○我等の如くにすべし

第八



も亦入れり

我は水の中に入れりや○我は水の中に入れり○彼も我と同どくその中に入れり○吾の飼牛

第九



ずして、獅なり。○行け、行け、他所へ行くとべし。

第十

これは牛なりや。○これは彼の飼牛なりや。○否、これは牛にあら

ずして、獅なり。○行け、行け、他所へ行くとべし。

この帽は我等の冠るべきものなりや。○これは吾に冠

ることを得べきや。○これは冠ることを得



べし。

第十一

それは誰の馬車なるや。○これは



我の馬車なり、○我は
 了の中に乗れる也、○
 否、彼は、その中に、乗れ
 り、

第十二

それは、我なり也、又、彼なり也、○そ
 れは、彼なり、○我等の爲す如くせ



のよ、○我等の如くす
 づし、
 第十三
 それは、馬なり也、又、
 牛なり也、○若し、牛
 なれば、それは、我の
 飼牛なり、

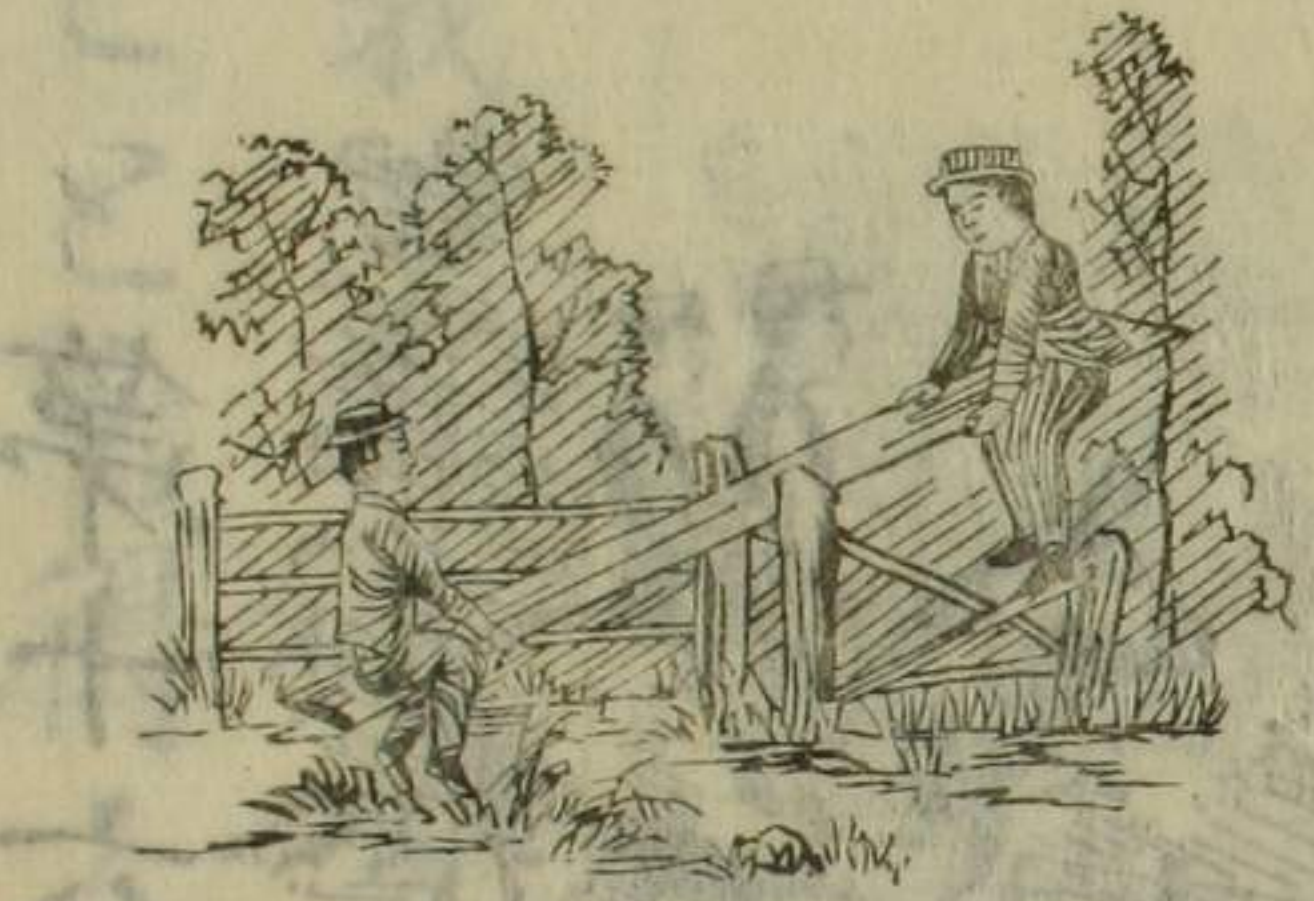
第十四



我はそれに乗りにて、
 高く上ることを得
 べきや、○我等はそ
 れに乗りにて、高く上
 ることを得、○高く上ることを得
 るならば、我の上り如く、高く上

るべし、

第十五



我は上れりや、○高く
 上れり、○彼は下れり
 や、○低く下れり、○我
 の如く上れ、○我の如
 く、高く上るべし、

第十六



これは牛なり、○
我は、吾が飼牛に、
乗る、○彼も、亦、我
の飼牛に、乗れり、

○牛、歩み行け、牛、歩み行くべし、

第二課

第一



我等をして、昇らし
めよ、○我等は、昇る
ことを得、○我の昇
る如く、昇れ、○汝は、

我の昇るを見たりや、○汝は、昇る
ことを得るや、

第二



吾は、それを爲すこと
を得、○彼は、爲す
ことを得る也、○彼
は、それを爲すこと
を得、吾も亦爲すこと
を得、○汝は、
それを爲すことを試み得べし、

第三



爰に、童子と、犬とあり、○我は、童子と、犬
とを見る、○此童子
は、犬に乘れり、○汝
は、其童子を見たり也、○犬は、汝を
見し也、

第四



これは狐なりや。○然り、これは狐
なり。○此狐は犬に追
はれて、走れり。○汝は、
これを見たりや。○其
犬は、狐を得たりや。

第五



彼女女子の嘆くを見
よ。○彼は何を嘆け
るや。○汝は、童子を
見たりや。○彼も、亦
嘆きたりや。○否、彼

は、嘆かざるなり。

第六



それを見たり、

第七

これは、吾の水呑なり、○その中に、

汝は、吾の駒に乗る
を見たりや、○汝は
吾が駒の、走るを見
たりや、○然り、吾は、



一匹の蠅、飛び込めり、
○此、水呑に、水を注ぎ、
飲みて可なりや、○呑、
然るときは、洗ひて後、水を注ぎ、飲
むべし、

第八

此童子を見よ、○彼は、新衣、帽を



此童は、
持てりや、○彼は、帽を
持てり、○吾も亦、之を
持てり、



これは、山羊なりや、○これは、愛す
べき、山羊なり、○此山
羊の、走るを見よ、○そ
の走る、こと、甚だ遅し、

第九



此狐は、狡猾なりや、○
彼は、實に、狡猾なり、○
此牝雞

は、飛ぶ、ことを、得る
や、○彼は、老たる、牝
雞なり、



此老たる犬を見よ。○此鼠は、能く走れり。○此犬も亦然り。

第十



此老たる牛を見よ。○これは、赤き牛なり。○彼は、起き立つことを、得るや。○彼は、枯草を、

食ふや。○然り、尚ほ、能く起きて、之を食へり。



此牛は、歩むことを得るや。○此人は、牛を牽き來りて、これに、乾草を、食はしむる所なり。

第十一



禽之六〇然れを見せしめよ〇此

それは、徳利なりや、
それは、盃なりや、
これは、徳利にあらず、
又、盃にあらずして、壺
なり、

此梟を見よ、
〇吾に、そ

梟は、飛び翔ることを得るや、
〇然り、
梟は、飛ぶことを得れども、
走ることも能はず、

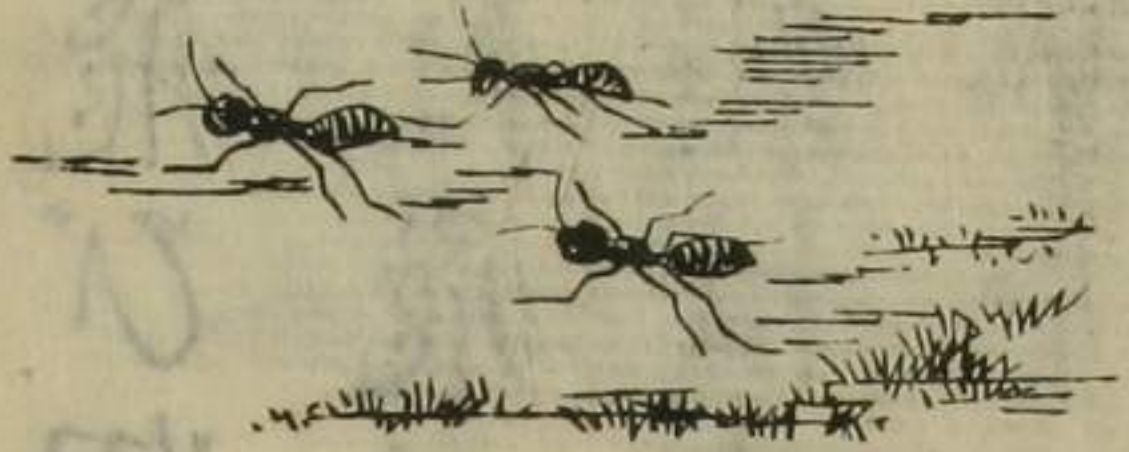
第十二

それは、蠅なりや、
〇それは、
は、
虫なりや、
〇否、
蠅にあらず、
又、
虫にもあらず、
〇



されば蜂なりや、○然り、これは蜂なり、

それは蜂なりや、○これは蜂にあらず、○それは、蟻なりや、○然り、これは、大なる蟻なり、○この蟻の、走るを見よ、



第十三次

吾の新しき獨樂を見よ、○汝は、そ

の獨樂を見たりや、○

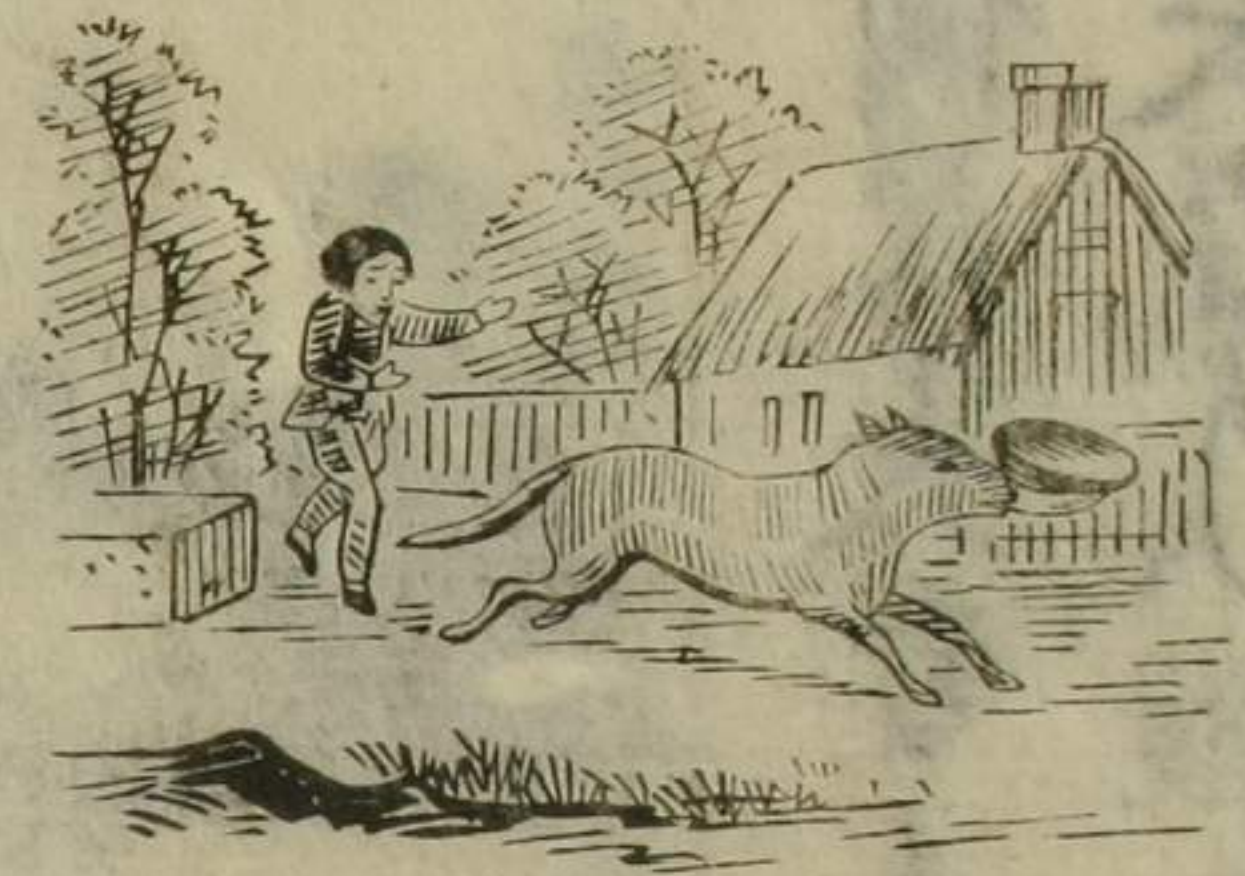
それは、大なる獨樂な

りや、○その獨樂は、如

何に大なりや、○その獨樂は、甚だ

大なり、





第十四

犬と豚との、走るを見よ、○犬は豚

此犬は如何にして、此帽を啣へ得たりや、○彼は其帽を箱の上に置きたるゆへ、^名犬はこれを得たるなり、

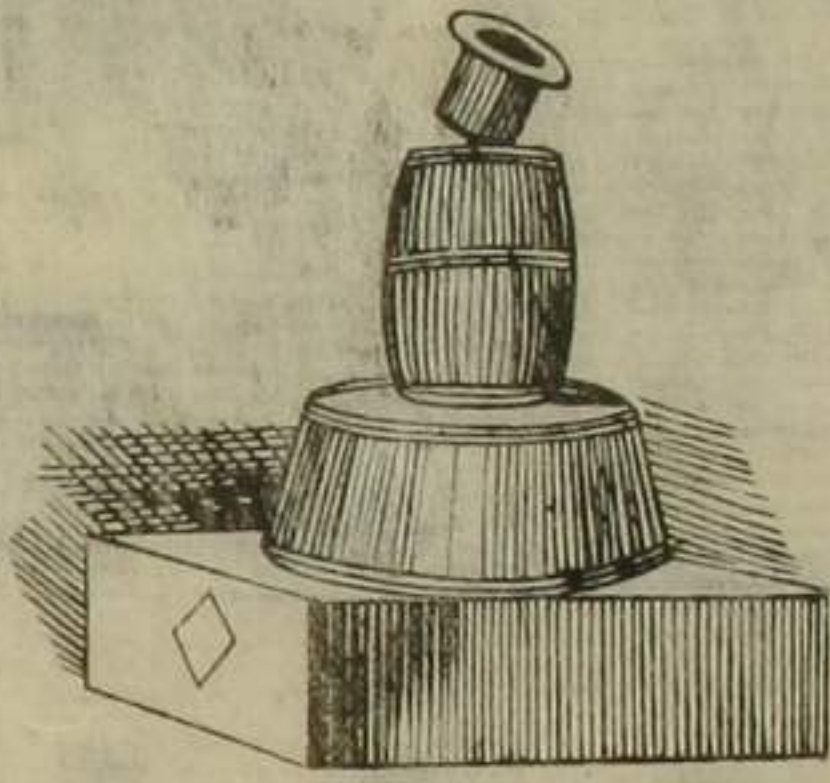


第十五

れを打つことを得、又其足を搏ることを得るなり、

の耳を啣へて引き留めんとせり、○これは吾の飼犬にして、悪き犬にあらず、○吾はこ

爰に箱の上に木盥あり、木盥の上
に小桶あり、小桶の上に帽あり。



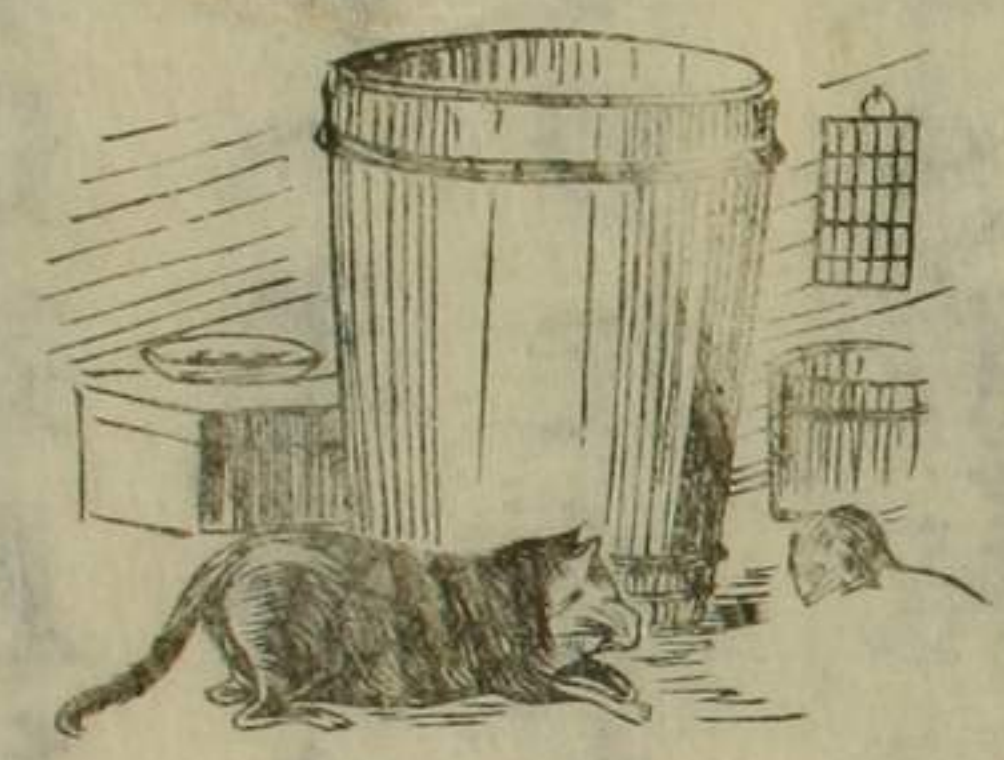
その小桶は新しく
して、帽は古し。○そ
れは我の帽なり。○
汝は吾の帽を、小桶の上に置き
や。○汝は何故に、其處に置き
や。

○此の如きことを爲すべからず

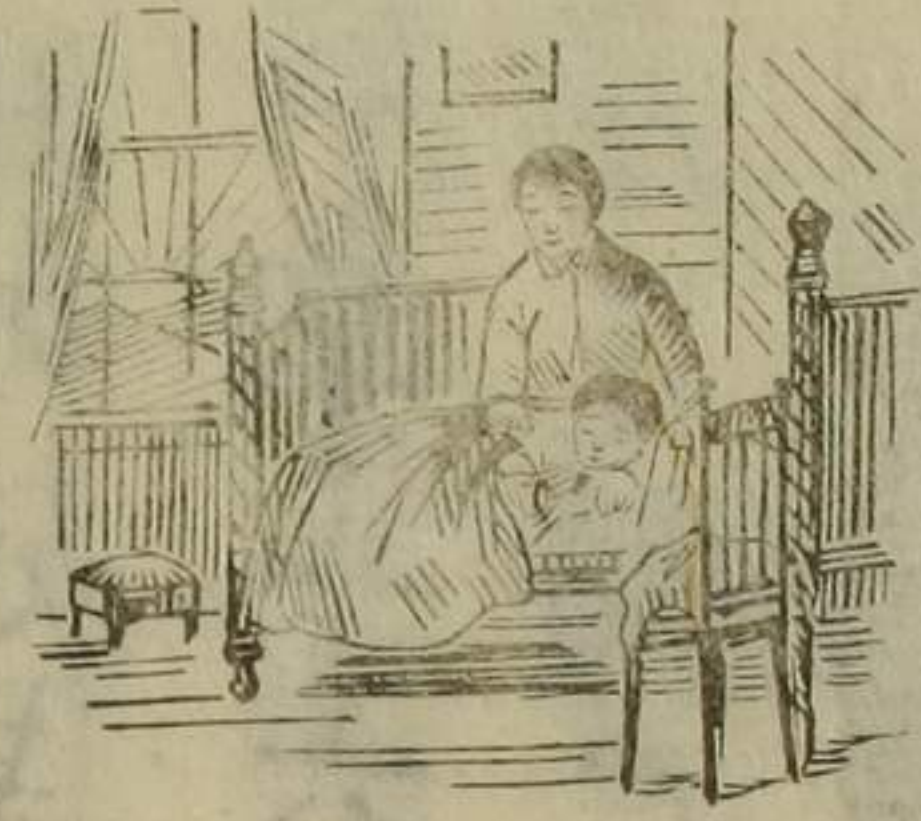
第十六

老たる猫と、大なる鼠とあり。○此

猫は甚だ狡猾なり。○
汝は猫を見たりや。○
此猫は、今鼠を見たれ
ども、鼠は、未だ猫を見



ず。○走れ鼠、走らざれば、猫が汝を捕へて、食ふべし。○鼠は、其老たるものにて、猫の如く、狡猾ならず、



起きよ、起きよ、褥床を離るべし、大陽昇りたればなり。○汝は、大陽

第十七

の出でたるを見得るや。○終日、褥床に、卧すべからず、今、直きに、起き出づべし。○起きて、門外に出で、人の、草を、刈るを見よ。○草は、牛馬の、食料とする爲めに、刈り取るなり。

第十八

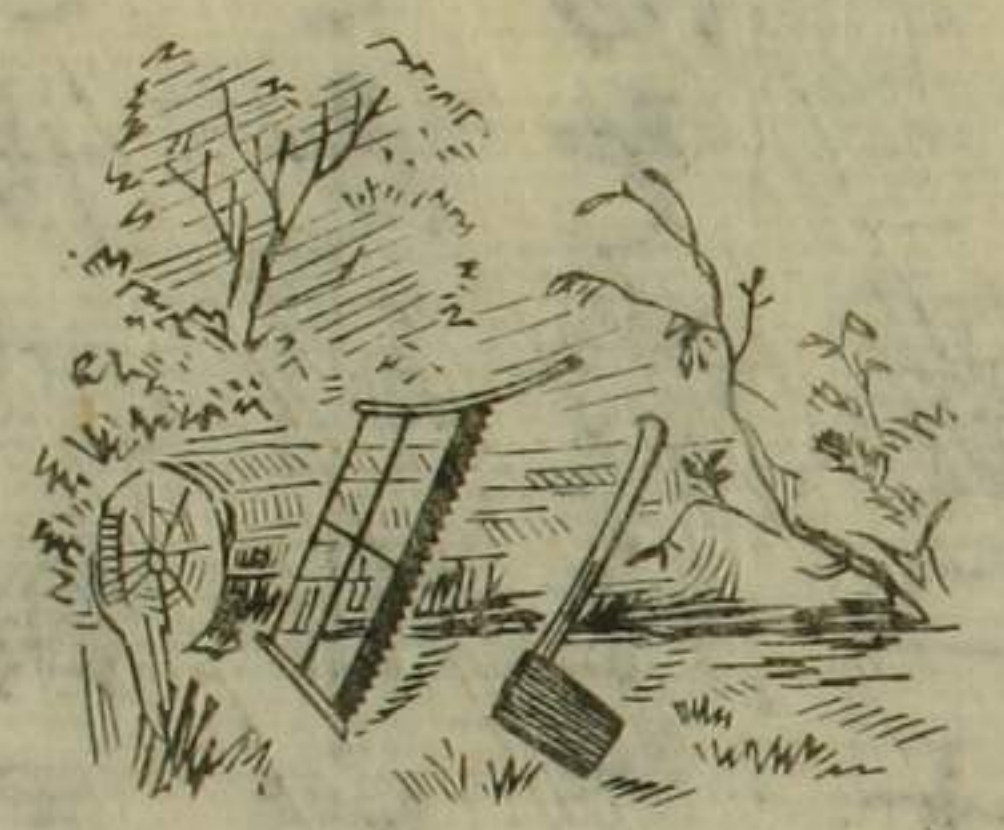
今日は、五月の、熱き日なり。○吾は、

蜂が、蕾に止るを見たり、○汝は、こ
れを見たりや、○汝は、その蜂に、止
め針を刺したりや、○
蜂は、今、蕾に止れり、然
れども、その蕾を、食ふ
ことなす、○蜂は、飛ぶことを得る
や、○吾は、蜂を、盃中に、入るべきや、



第十九

爰に、渾木と、鋸と、斧とあり、○汝は、
此三つの物を見たり
や、○それは、大なる渾
木なりや、○これは、大
なる渾木なり、○斧は、
渾木を、劈く爲めのものにして、鋸



は、これを切る爲めのものなり。○
○汝は、鋸と斧とを使ひ用ふるこ
とを得るや。○これを使ふときは、
傷を受けざる様にすべし。

第二十

汝は、乾草の上に、我の居るを見得
るや。○吾は、今、乾草に、上りて居れ

り。○汝も亦、此乾草に、上ることを、

得るや。○然り、吾も
亦、上ることを得。○
○汝は、彼童子を、上
らむべけれど、も
犬を、上らむべか



らず。○童子、汝は、來りて、此處に、上

るべし、

第二十一

爰に、人と豚とあり、○吾は、人と豚



とを見る、○豚は、小屋の中にあり、○汝は、その人と豚とを見たりや、○然り、吾

は之を見たり、○それは、肥たる豚なりや、○豚は、乾草を、食ひ得るや、○否、食ひ得ず、○我等は、小屋に行きて、豚を見ることを得るや、○然り、汝等は、行きて、見ることを得べし、

第二十二

これは、老人なり。○彼は、如何に、老
たりや。○彼は、起き立つことを得
るや。○彼は、起き立つ
ことを、得れども、年老
たるゆへ、遠く行くこ
と能はず。○汝は、彼の
帽を、見たりや。○汝は、古き小屋を、



見たりや。○我は、これを見たり。○

これは、老人の、小屋な
り。○此老人は、犬と、猫
と、雞とを、飼へり。○汝
は、その犬と、雞とを見
ることを、得れども、猫



は、小屋の中に、居るゆへ、これを見

ること能はざるべし、

第二十三

老人は、今小屋の中に在りや、○然り、彼は、褥床の上に居れり、○此老人は、物を見ることを得るや、○然り、此老人は、物を見ることを得、○彼の飼犬は、悪しき犬なりや、○否、彼

の犬は、悪しき犬にあらず、○猫は、小屋の中に在りや、○然り、猫は、新しき蓆の上に居れり、○老人は、今、吾を見ることを得るや、○否、彼は、汝を見ることを能はず、彼は、褥床の上に、あればなり、○彼は、盃と帽とを、持てりや、○彼は、兩ながら、これを

持てり、○我は、老人の小屋に行き、
彼ふ逢ひて、その猫と盃とを見ん
ことを、請ひ得べきや、○然り、汝は、
行きて請ふことを得べし、然れど
も、走りて、行くべからず、

第二十四

此水呑の側らに、蠅止れり、○若し、

これをつめて、其中に入るれば、飛
び出すことを得るや、○我等は、こ



れを、試むべきや、○
否、その蠅を、捕ふる
ことなかれ、○若し、

これを入るれば、飛び出すこと明か
なり、○汝は、蠅の飛ぶを見たりや、

○汝は、蠅の眼を見たりや、○蠅は、
我を見ることを得るや、○然り、そ
れは、汝を見ることを得るなり、

第二十五

汝は、吾の獨樂を、探し出すことを、
得るや、○吾の獨樂は何處に在り
と、思ふや、○それは、我帽の中に在



りて、帽は、帽子掛けの
上に在り、○吾は、容易
く、これを取り出すこ
とを得、○汝は、手を伸
して、これを取り出すことを得る
や、○若し、手の届かざるときは、箱
又は、椅子を臺とし、その上に乗り

小學讀本卷之一

て取り出すべし

小學讀本卷之一終

明治十五年五月廿九日板權免許

同年八月出版

東京府士族

纂譯人

宇田川準一

東京西小川町丁目七番地

三重熊本根室縣御用書肆

出版

文學社

東京本町四丁目十六番地

